

# 外国語科におけるオンライン授業での活用を 見据えた動画教材の作成の在り方

—「知識及び技能」と「思考力, 判断力, 表現力等」の育成を目的として—

## Research on Creating Video Teaching Materials that can be used in Online Foreign Language Classes

— Raising the Students' "Knowledge and Skills" and "Ability to Think, to Judge, and to Express Oneself" —

大里 弘美・丹光 真衣・小松 千春

OSATO Hiromi, TAMMITSU Mai and KOMATSU Chiharu

Many schools that have been closed for a long time due to the spread of the coronavirus have created video materials and distributed them on their websites. Therefore, the government has decided to accelerate the completion of the GIGA school concept, which will install terminals for each elementary and junior high school student nationwide in 2020, and also plans to establish a communication network in elementary and junior high schools. From this time forward, teachers will need the ability to create teaching materials for online lessons.

Therefore, in this study, we considered the ideal way that video teaching materials can be used not only in school lessons but also in online English lessons in junior high school.

As a result, in order to create video teaching materials that can be used in online lessons, It must be able to (1) understand the actual conditions of the student's home ICT environment, (2) select learning activities and video types that match the actual conditions, and (3) create an effective lesson plan to achieve such condition.

### 1. はじめに

新型コロナウイルスによる感染防止により長期休校を迫られた多くの学校では, 生徒の学びを止めないための対策を行った。

外国語科では, 教育委員会等から発音や文法の説明, 教科書本文の音読, 内容理解に関する質問等の授業動画が作成され, オンライン動画教材として配信された。しかし, 誰に対して何を目的に配信するのか, 単元のどの場面でどのように活用するのかが明確でないものもあった。さらに, 休校が突然の出来事であったため, 生徒の家庭のICT環境の実態把握も十分になされていない状況も見受けられた。

また, 新学習指導要領では, 「知識及び技能」においても文脈の中での表現の活用が求められるだけでなく, 目的や場面・状況に応じて表現する「思考力・判断力・表現力等」の育成も求められていることから, これらの力を育成するための視点での動画教材を作成する必要もある。

2020年9月現在, 中学校のほとんどが対面授業を開始している。しかし, この長期休校の影響によ

り、政府は、全国の小中学校の児童生徒に「1人1台端末」を整備するGIGAスクール構想の完成を当初予定の2030年度から2020年度に前倒しすることを決定し、2020年度中に小中学校に高速大容量回線と無線LANなどによる通信ネットワークを整備する予定としている。今後、オンライン授業の普及がより加速的に広がる中、教師がオンライン授業実施に必要な教材作成能力が問われることとなるだろう。

本研究では、中学校外国語科において対面での授業だけでなく、生徒の家庭のICT環境も含む学校の実態に応じたオンライン授業でも活用できる動画教材の在り方を考察する。

## 2 研究の考え方

### (1) 外国語教育における動画の有効性について

はじめに動画の外国語教育における有効性について考察する。現時点においても、外国語教育においては音声の習得や場面に応じたコミュニケーションを学習することから、各教科書に付随したデジタル教材に動画が多用されている状況にある。

動画は静止画とともに映像と捉えられるが、映像について、池田（2002）は、学習者の学習を促進するために実施される実際の授業活動を、人間の情報処理（あるいは認知）との関係から設計されなければならないとし、学習と記憶の情報処理モデルに基づいて、教授を構成する教授事象を表1のとおり整理している。

表1 授業過程における教授事象と具体的な授業活動

教授事象	具体的な授業活動
1. 注意の獲得	演示や実験を提示する
2. 学習者に目標を知らせる	目標及び実例を与える
3. 前提学習の再生を刺激する	関連する事項に関するQ-Aなどを行う
4. 刺激となる教材を提示する	演示、問題の提示を行う
5. 「学習の指針」を洗える	言語などによる説明を行う
6. 実行を引き出す	練習問題、作業などを行う
7. 実行に対するフィードバックを与える	学習者の解答の正誤を伝える
8. 実行を評価する	テスト等を行う
9. 保持と転移を高める	新しい問題などを一定期間ごとに行う

さらに、実際の授業活動を教師が直接学習者に対して働きかける活動を基準に、池田（2002）が提示した3段階—「情報提示」「反応喚起」「診断・フィードバック」—に分類し（図1）、それぞれの段階における「映像」の効果を挙げる。

① 情報提示（表1の1, 2, 3, 4, 5）
授業における説明、助言、図示、演示
② 反応喚起（表1の6, 9）
教師が提示した情報を学習者が正しく受容しているかどうかを知るために学習者に質問に答えさせたり、具体的な作業をさせたりする
③ 診断とフィードバック（表の7, 8）
学習者の反応を評価しその結果をフィードバックすると同時に授業活動についての評価を行い改善に活用する

図1 映像の効果が期待できる授業活動の3段階

① 情報提示段階における「映像」の教育効果

この段階では、新出文法や語彙の提示、およびその導入、説明を行い学習者に知識的に理解させる事が教授目標であるが、それとともに、どのような場面で使用されるのか、現実の言語生活にできるだけ近い形で学習者に提示することが必要である。具体性が高い、学習者の言語生活を提示できる映像は効果的である。

② 反応喚起段階における「映像」の教育効果

この段階では、情報提示段階で提示された言語表現を、現実の場面において的確に使用できるようにするための学習活動が求められる。そのため、「置き換え練習」や「反復練習」などの繰り返し練習が必要であるが、映像を使用して、場面や状況を示した上で練習することで、場面・状況に応じた意味のある練習を行わせることに繋がる。このことは、映像の工夫により、学習者の動機付けや意欲の向上にも効果が期待できる。本研究では、新学習指導要領で求められている文脈に応じて活用できる「知識及び技能」の定着を図るとともに、目的や場面、状況に応じたコミュニケーションを行う「思考力・判断力・表現力等」の育成も図ることとする。

③ 診断・フィードバック段階における「映像」の教育効果

この段階では、学習者の学習者とともに指導者の授業の振り返りにも活用することができる。

この「映像の効果が期待できる授業活動の3段階」は、単元指導計画に対応させることが可能であり、それらの各段階で「授業課程における教授事象とその具体的な授業活動」を組み合わせることによって、動画教材の活用場面を選定し、動画を活用する目的も明確にすることができる。

(2) オンライン授業における学習活動について

次に、動画をオンライン授業で活用することを考える際に、オンライン授業ではどのような学習活動が設定できるのかを考察する。

図2に工藤（2020）が整理したオンライン授業における英語教育に関する学習活動のカテゴリの考え方を示す。これは、生徒中心か教師・教材中心か、そして個人的か協働的かの2次元で分類したものである。

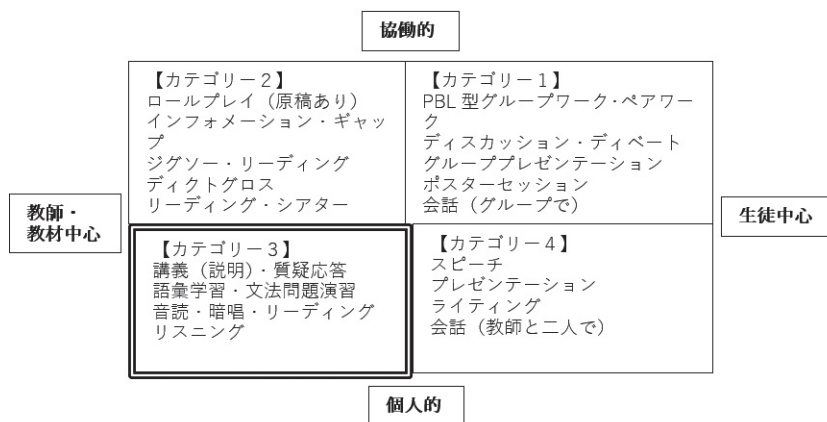


図2 オンライン授業における学習活動のカテゴリ（工藤：2020 参考）

### 【オンライン授業における学習活動のカテゴリーについて】

#### ① カテゴリー 1：生徒中心型×協働型

ブレイクアウトセッション機能等を用いた会話練習やディスカッション，課題解決のためのプラン作成などのグループワークが考えられる。

#### ② 教師・教材中心型×協働型

インフォメーション・ギャップ活動やジグソー・リーディングなどの活動

#### ③ 教師・教材中心型×個人型

文法説明や語彙学習，音読練習などの活動

#### ④ 生徒中心型×個人型

生徒が取り組んだ課題の成果を提出したり，発表したりする活動

工藤（2020）の「オンライン授業における学習活動のカテゴリー」によると，オンライン授業で外国語科（英語）における学習活動のほとんどを行うことができると捉えられる。

しかし，例えば「会話」は，同時双方向の学習活動であり，端末にマイク機能やカメラ機能を必要とする。つまり，生徒の家庭におけるICT環境によって学習活動が制限されることになる。

### (3) 生徒実態に応じた動画教材について

学校の実態に応じた動画教材を作成するために，研究対象校のA公立中学校の生徒の家庭のICT環境について次の視点から調査した。

#### 【2020年度A公立中学校の生徒の家庭におけるICT環境】

- ① 生徒の家庭でインターネットを利用している：93.4%
- ② 生徒の家庭に無線LAN（Wi-Fi）に接続できる環境がある：86.9%
- ③ 生徒の家庭にカメラ・マイク機能付きのパソコンやタブレットがある：65.6%
- ④ 生徒の家庭にカメラ・マイク機能のないパソコンやタブレットがある：23.0%
- ⑤ 生徒が個人持ちのスマートフォンを所有している：68.9%

2020年度のA公立中学校の実態として，インターネットを利用していない家庭が6.6%，また，家庭にカメラ・マイク機能のないパソコンやタブレットしかない生徒が23.0%，個人持ちのスマートフォンを所有していない生徒が31.1%いる。このことから，一方的に情報を得ることしかできない生徒がいると考えられるため，カテゴリー3の「教師・教材中心型×個人型」に焦点を当て動画教材を作成した。配信はA公立中学校のホームページにURLを掲示し，生徒のみが視聴できるようパスワードを設定した。また，個人端末をもっていない生徒にはCD教材を作成し配付した。

### (4) 動画教材について

(3)で明らかにした本研究対象校のICT環境に適した動画の在り方について考察する。

動画教材の作成には，作成する動画の種類によって必要な機材やコンテンツ（アプリ等）が異なる。また，その種類によって制作費用，制作時間，そして教師の負担にも違いがでてくる。

それらについて木村（2020）が示している動画教材の分類・整理を表2に示す。

表2 教育に利用される動画のタイプ

	レッスン再現型	キャプチャ型	アニメ型	エンタメ型
特徴	専門の講師による従来型授業の動画化。録画そのままや編集されることもある。	タブレットやPCの画面を取り込み、音声と書き込みで解説。	アニメの進行に合わせてナレーションや字幕による解説。	個人や著名人が教育系トピックをコンテンツにして主にYouTubeで配信。
事例	・JMOOC ・スタディサプリ	・カーンアカデミー ・eboard	・TED-Ed ・WEB玉塾	・English with Lucy
教師の負担	中～高	中	高	中～高
制作費用	低～中	低	高	中～高
制作時間	少～多	少	多	多
必要な機材、主なアプリなど	・デジタルカメラ ・マイク ・編集用PC	・PC、タブレット ・マイク ・ホワイトボード記録アプリ ・ビデオ会議アプリの録画機能	・高性能なPC ・アニメに特化したアプリやサービス	・デジタルカメラ ・マイク ・複数の入力を切り替えるスイッチャー

本研究では、A公立中学校における対面授業とオンライン授業の両方での活用を目的としている。そのため、英語担当教員は通常の授業を行いながら、オンライン授業にも対応した動画教材を作成することとなる。

このことから、制作時間と教師の負担の最も少ない「キャプチャ型」の動画作成をすることとした。

### (5) 動画教材で育成する資質・能力について

来年度、2021年度から中学校では平成29年に告示された学習指導要領が全面实施されることに伴い、この学習指導要領で育成を目指す資質・能力の内、今回の研究では「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の育成に効果があったかについて検証する。

今回の学習指導要領で育成を目指す資質・能力の評価の考え方については、文部科学省（2020）が作成した資料を参考にすることとした。

## 3 研究の実際

### (1) 研究の時期と対象

時期：2020年8月6日～9月28日（8月8日～8月19日 長期休業）

対象：A公立中学校 第2学年 1学級 20人

単元：New Horizon English Course②

Unit3「Career Day」(Presentation①「将来の夢」を含む)

### (2) 本研究におけるオンライン授業も見据えた動画教材

本研究におけるオンライン授業も見据えた動画教材を次の3タイプとした。各タイプについて、①目的、②新学習指導要領における評価の観点、③「映像」の効果が期待される「授業活動の段階」と「具体的な授業活動」、④具体的な内容を設定した。各タイプの①～④は次のとおり。

また、オンライン授業のカテゴリーは、生徒の家庭におけるICT環境を考慮して「教師・教材中心

型×個人型」、動画教材の種類は、作成する教師の負担を考慮して「キャプチャ型」とした。

#### 【タイプA】

- ① 目的 音読のための動画
- ② 評価 「知識・技能」
- ③ 「映像」の効果が期待される「授業活動の段階」と「具体的な授業活動」  
情報提示段階の演示と実例，反応喚起段階の練習問題実施と一定期間毎に実施することでの保持と転移
- ④ 具体的な内容  
音読のための動画は、音声と字幕を変え、次の4つの種類の音声を作成し、活用した。  
ア 英語音声と英語字幕（リピートための間があるもの・無いもの）  
イ 英語音声と日本語字幕 ウ 音声無と日本語字幕

#### 【タイプB】

- ① 目的 文脈の中で、新出表現を活用する力を育成するための動画
- ② 評価 「知識・技能」
- ③ 「映像」の効果が期待される「授業活動の段階」と「具体的な授業活動」  
反応喚起段階の練習問題実施
- ④ 具体的な内容  
動画の SCRIPT を次にあげる。生徒は動画を視聴しながら、（ ）内に入る適切な表現を、即興的に考え、口頭で挿入する。

(1) Narrator: Mr. Smith and Naoko are talking about what they did yesterday.  
A: Hello, Mr. Smith!  
B: Hi, Naoko!  
A: When I went to the library yesterday, I saw you there. Why did you go there?  
B: I went there (① 正答例: to read some books).  
A: Oh, that's nice! What's your favorite book?  
B: I like Harry Potter.  
A: I see.

(2) Narrator: Ken is making a speech about his dream.  
A: Hello, everyone. I'm Ken Takahashi!  
I want to be an engineer.  
I want to make a robot in the future. So I have many (② 正答例: things to study).  
How about you? What do you want to be in the future?  
B: (③ 正答例: I want to be a doctor. I want to help sick people.)

図3 「知識・技能」の評価を目的とした動画教材のSCRIPT

#### 【タイプC】

- ① 目的 自己表現活動のモデルとなる動画
- ② 評価 「思考・判断・表現」
- ③ 「映像」の効果が期待される「授業活動の段階」と「具体的な授業活動」  
情報提示段階の実例
- ④ 具体的な内容



生徒が自分の「将来の夢」について英語で自己表現するための実例として、英語担当教員がALTに「将来の夢」に関するインタビューをしている動画を提示する。動画のスク립トを図4に示す。

<p>【「将来の夢」について、英語担当教員がALTにインタビューしている】</p> <p>B: Hello, I'm an English teacher in Hiroshima, Japan. I came to Japan two years ago.</p> <p>A: Oh, you came to Japan two years ago. Why did you come to Japan?</p> <p>B: I like Japanese food and I like Japanese culture. Also, Japanese history is interesting for me.</p> <p>A: I see. What do you want to be in the future?</p> <p>B: I want to be a science teacher in Canada.</p> <p>A: Oh, why do you want to be a science teacher?</p> <p>B: I have two reasons. First, I like astronomy. I like stars and planets very much. It's interesting. Second, I want to help students learn about science. Science is very interesting. So, I want to help students learn more.</p> <p>A: Thank you so much. That's a wonderful dream.</p>
---

図4 「思考・判断・表現」の評価を目的として作成した動画教材のスク립ト

### (3) 動画教材を活用した単元指導計画

(2)で示した【タイプA】～【タイプC】の動画教材を、研究対象であるA公立中学校第2学年のUnit3の単元指導計画にあてはめたものを表3に示す。

表3 動画教材を活用した単元指導計画

	主な学習活動	動画教材（授業活動の段階・具体的な授業活動）
1	Unit3 本文全体の聞き取り Unit 3-1 本文内容理解	【タイプA】音読動画教材の導入と活用 同時にHPに掲載（情報提示・実例）
2	Unit 3-1 不定詞の副詞的用法の意味と用法の理解	【タイプB】文脈の中で不定詞（副詞的用法）を活用する動画の活用（反応喚起・練習問題）
3	Unit 3-2 本文内容理解と	
4	Unit 3-2 不定詞の名詞的用法の意味と用法の理解	【タイプB】文脈の中で不定詞（名詞的用法）を活用する動画の活用（反応喚起・練習問題）
5	Unit 3-3・4 本文内容理解	
6	Unit 3-3・4 不定詞の形容詞的用法の意味と用法の理解	【タイプB】文脈の中で不定詞（形容詞的用法）を活用する動画の活用（反応喚起・練習問題）
7	Unit3 不定詞に関するまとめと練習	【タイプB】文脈の中で不定詞（不定詞の全ての用法）を活用する動画の活用（反応喚起・練習問題）
8 9	Presentation①「将来の夢」 自分の将来の夢についてまとまりのある文章を書く。	【タイプC】「将来の夢」のモデル動画の活用（情報提示・実例）
10	Presentation①「将来の夢」 「将来の夢」について、クラスで発表しあう。	

### (4) 研究結果と分析

研究授業に際し、生徒の意識調査として「動画視聴に関するアンケート」と「英語学習に関するアンケート」を、英語力調査として「音読に関するテスト」、「文脈を伴う表現に関するテスト」と「自己表現に関する作文」を実施した。結果を次に示す。

## ① 意識調査結果

表4 動画視聴に関するアンケート結果（4肢選択式アンケートで肯定的な回答をした生徒の割合）

	内 容	肯定的評 価の割合
1	動画を見ることで、場面・状況を理解し、それに応じた表現を考えることができた。	90
2	動画視聴を自学学習で行うことで、本文の内容を理解し、正確に音読することができるようになった。	80
3	動画を視聴することで、「将来の夢」をテーマにどのような文章を書くのかをイメージすることができた。	75
4	動画を視聴することで、文章を書くためのアイデアを広げることができた。	85
5	動画を視聴することで、自分の言いたいことを英語で書くヒントが得られた。	80
6	動画を視聴することで、1年生のpresentation③の「思い出の行事」で英作文をした時より、今回の「将来の夢」での英作文の方が、英語の量が多くなった。	95
7	動画を視聴することで、1年生のpresentation③の「思い出の行事」で英作文をした時より、今回の「将来の夢」での英作文の方が、内容に深まりがでたと思う。	80
8	自学学習で本文や単語の発音に自信がない時や「将来の夢」の英作文のアイデアや表現に困った時に動画を視聴した。	40

表5 英語学習に関するアンケート結果（生徒が選択した4肢選択回答の数値の平均値）

	質問内容	事後	事前	事後 - 事前
1	教科書を自信をもって音読することができる。	3.2	2.1	1.1
2	スポーツや音楽の好み、休日の過ごし方など、日常の簡単な内容を即興的に会話することができる。	2.9	2.1	0.8
3	スポーツや音楽の好み、休日の過ごし方など、日常の簡単な内容を準備をせず、3文程度で話すことができる。	2.6	1.7	0.9
4	自己紹介や日記など、日常の簡単な内容を、5文程度の文章を書くことができる。	2.9	2.3	0.6
5	英語の学習は好きである。	2.7	2.3	0.4
6	英語学習を続ければ、将来、英語で外国の人と会話やメールのやり取りができるようになると思う。	3.1	2.3	0.8

表4・5は意識調査の結果である。表4-2と表5-1は【タイプA】の音読に関する動画教材の効果を図るための項目であり、正確に音読できると捉えている生徒が80%、また、研究前より自信をもって音読することができるかと捉えている生徒の数値が1.1ポイント上昇している。しかしながら、表4-8では、発音に関して自信がない時は自主学習で動画を視聴したと肯定的に回答した生徒が40%に留まっている。このことに関して、生徒に聞き取りを行ったところ、「自主学習の時間がない」などの回答があった。

次に、【タイプB】の文脈の中で表現する力を育成するための動画教材の効果を図るための項目である表4-1の「動画視聴により場面・状況を理解し、それに応じた表現を考えることができた」と肯定的に捉えている生徒が90%、表5-2の「日常の簡単な内容を即興的に会話することができる」と肯定的に回答した生徒も0.8ポイント上昇している。即興的なやり取りのモデルはALTと英語担当教員のスキットで提示することが多いが、ALTが不在の際にやり取りのモデルを示す教材としても



有効であった。

最後に、【タイプC】の動画教材の有効性を図る項目であるが、表4-6の「将来の夢」をテーマにした自己表現で1年生の最後に行った「思い出の行事」をテーマとした自己表現よりも量が多くなったと肯定的に捉えている生徒が95%、表4-7の内容に深まりがでたと肯定的に捉えている生徒が80%であり動画教材の有効性を感じている生徒が多い。

② 英語力調査結果

次に作成した動画教材を活用した効果を、生徒の英語力調査から考察する。

【音読に関するテスト結果：「知識及び技能」の力の育成】

Unit3-3の69wordsの本文の音読を「正確に」、「適切な時間内で」、「リズムよく」読むという3つの視点から「知識・技能」の評価を実施した。その結果、生徒の93%が正確に読むことができ、67%が目標設定した40秒間以内に読み終えることができた。また、音の連結等が行われた音読となっている生徒が61.1%であった。このことは、動画教材を何度も視聴することでリズムよく音読するために必要な連結等について身に付けることができたと考えられ、発音における「知識及び技能」の力の育成を図ることができたと捉えることができる。

今回の音読テストで評価の視点としなかったが、「相手に内容が伝わるように、内容のまとまりを考えながら音読していたか」という視点で指導と評価を行うことで「思考・判断・表現」の評価を行うことも可能であった。今後の音読テストの評価項目に追加し、音読における「思考・判断・表現」の在り方を検討していく。

【文脈を伴う表現に関するテスト結果：「知識及び技能」の力の育成】

次に「知識及び技能」の力の育成に関する動画教材の有効性を検証する。図5は、「知識・技能」の評価に関する問題、表6はその結果である。

【問題】 不定詞を使用して、( ) 内に適切な語句を入れましょう。

A: I want to go to Australia this summer.  
I want to see Koalas there.  
Which country do you want to go?

B: (① 正答例：I want to go to America.)  
A: Oh, me too! That's a nice place. I want to see the Statue of Liberty there. I think that it is very big. Why do you want to go there?  
B: I want to go there (② 正答例：to study English ).  
A: Sounds nice. (②の回答に応じて：I want to speak English, too.)  
It is going to be a long flight to Australia, so I need my neck pillow to sleep comfortably on my trip.  
What about you? When you go to America, what do you need for your trip?  
B: I need (③ 正答例：something to read. I like to read mystery novels.)  
A: Oh, I see. Have a nice trip!

図5 「知識・技能」の評価を目的とした問題

表6 「知識・技能」の評価を目的とした問題に対する生徒の解答状況

問題番号	正答率 (%)	誤答例
①	83.3	I want go to America.
②	77.8	speak English
③	77.8	like to read

問題番号①～③のいずれも8割程度の正答率となっている。①の誤答例の生徒に聞き取りをすると、「go toにもtoがあることからwantのtoを削除した」との回答であった。②の誤答については、文脈は捉えられているが、副詞的用法としての「to」を記載していない。③の誤答も同様に文脈は捉えられているが、不定詞を正しく使用できていない。しかしながら、8割程度の生徒が正答していることから、文脈の中で活用しながら正確に不定詞を使用する「知識及び技能」の力は育成されていると考える。

### 【自己表現に関する作文：「思考力・判断力・表現力等」の力の育成】

最後に、図5の『「思考・判断・表現」の評価を目的とした動画教材のSCRIPT』を使用した動画教材の視聴を通して、「思考力・判断力・表現力等」の力の育成について考察する。図6は、「将来の夢について、研究対象校の生徒が書いた語数と教科書の語数、そして動画教材の語数を比較したグラフである。語数については、動画教材より12.5語、教科書教材より10.5語、少ない結果となった。意識調査では動画教材を視聴することで1年生のpresentation③の「思い出の行事」で英作文した時より、英語の量が多くなり、内容に深まりがでたと回答している生徒が多かったが、使用した語数は多かったとは言い難い。文章構成については全員理解できていた。

この結果から、単に動画教材を視聴させることでは、教科書と同程度、またはより内容の深まりのある自己表現をさせることには繋がらなかったと考えられる。生徒により深まりのある内容の作文を作成させるためには、生徒が書いた文章を、クラスの友達と交換して、読み合う等の活動を設定し、生徒に文章を再考させる指導が必要であったと考える。

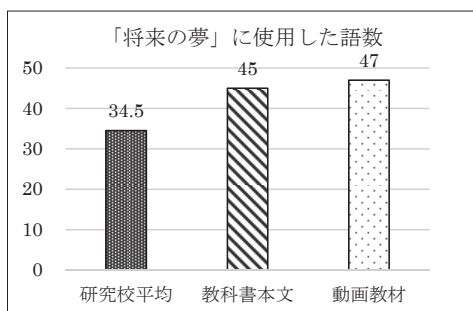


図6 「将来の夢」の作文で使用した語数

【生徒が書いた「将来の夢」(例)】  
 I want to be an event staff member.  
 I have three reasons.  
 First, I want to make everyone happy.  
 Second, I like events very much.  
 Third, I want to see many artists.  
 To be an event staff, I want to see a lot of events, so I want to be an event staff member.

図7 生徒の作文例

## 4 まとめ

本研究では、公立中学校において対面授業だけでなくオンライン教材としても活用できる動画教材について研究を行った。

その結果、学校の実態に応じたオンライン授業のカテゴリーや動画の種類を選択し、選択した動画教材の効果が期待される「授業活動の段階」と「具体的な授業活動」を単元指導計画に照らして検討することによって、「知識及び技能」の資質・能力を育成するために有効な動画教材を作成することができた。しかし、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を育成するために有効な動画教材であったとは言えない。

今後は、次のことについて検討する必要がある。

一つ目は、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力の育成を図るための動画教材の活用について再検討する必要がある。音読については「相手に内容が伝わるように、内容のまとまりを考えながら音読していたか」という視点で指導と評価が不足していた。文脈の中でのやり取りや自己表現に関する英作文についてもペア・グループ活動でお互いの表現について指摘し合ったり、友達の良さを取り入れたりする学習活動を設定し、より効果的な表現を吟味させる学習活動が不足していたと考えられる。今回は、研究対象校のICT環境の条件によって、「教師・教材中心型×個人型」のオンライン授業の学習活動を選択したことにより、生徒から発信するという学習活動の視点での指導が不十分になっていた。この課題への対策としては、「生徒中心型×個人型」「生徒中心型×協働型」の学習活動を取り入れ、生徒に自分の考えた表現を発信させる指導を行う必要がある。そのためには、生徒が家庭で使用できるICT端末やWi-Fi環境など、学校と家庭、両方のICT環境の充実が求められる。

二つ目は、実際に動画教材をオンライン授業で活用した検証が必要である。今回は、動画教材を中学校のHPに掲載しても、実際にオンラインで活用した生徒は少なく、オンライン学習での動画教材としての有効性を検証することに至っていない。これについてもICT環境の充実が求められるとともに、家庭学習等の授業外学習において生徒が取り組みたくなるオンラインで活用する教材の在り方を教師が創意工夫することが必要であろう。

## 【参考文献】

- 城生伯太郎・池田伸子他. 2002. 「映像の言語学 日本語教育学シリーズ〈第6巻〉」東京：おうふう  
木村修平. 2020「オンライン授業で加速する動画教材の活用」東京：大修館書店  
工藤泰三. 2020「双方向型オンライン授業のTips」東京：大修館書店  
笠島純一他. 2017「New Horizon English Course②」東京：東京書籍  
文部科学省. 2020「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校外国語」  
東京：国立教育政策研究所 教育課程研究センター

## 謝辞

本研究に際しまして、広島県安芸高田市立美土里中学校 校長 和田 治子様と教職員の皆様にご協力をいただきました。ここに記し、深謝申し上げます。

〈キーワード〉

外国語科, オンライン授業, 動画教材, 知識及び技能, 思考力・判断力・表現力等

大里 弘美 (現代文化学部言語文化学科国際コミュニケーションコース)  
丹光 真衣 (広島県東部教育事務所)  
小松 千春 (安芸高田市立美土里中学校)

(2020.10.21 受理)